

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	城東区
学 校 名	大阪市立今福小学校
学校長名	牛尾 慶一郎

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・今福小学校では、第6学年 24 名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

【国語】国語の平均正答率は大阪市を4p、全国を2.4p上回った結果となった。無回答率も1.6と低く全国と比べても下回っている。正答率の分布は真ん中あたりに固まっている。

【算数】算数の平均正答率は大阪市を4p、全国を5.2p下回る結果となった。正答数の分布を見ると3つの層に分かれている。無回答率は0となり、あきらめずに解答する姿勢がついてきている。

【理科】理科の正答分布を見ると大きく3つの層に分かれている。平均正答率は大阪市を6p、全国を9.3p下回る結果となった。無回答率は0.8と全国と比べても低い。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】言葉の特徴や使い方に関する事項は昨年度に引き続き、正答率が高かった。しかし、「書くこと」については正答率が低かった。自分の意見をはっきりとさせ、問われている事柄を入れ込みながら自分の考えをまとめていくといったことに課題が見られた。

【算数】「数と計算」については正答率が高くなってきたが、なぜそのように考えるかを説明する問題になると課題が残る。また、「変化と関係」については、問題を日常の具体的な場面に対応させながら生活体験を想起して考えさせるようにすることが大切だと考える。

【理科】「地球」を柱とする領域は正答率が高く、「エネルギー」を柱とする領域では正答率が低かった。問題を科学的に解決するために、どんな実験や観察が必要なのか、得られた結果からどんなことがいえるのかなど明らかにする自発的な学習活動が必要である。

質問紙調査より

「朝食を毎日食べていますか」では昨年度と同様にあまり食べていない児童の割合が全国や大阪市と比べて多かった。「自分にはよいところがあると思いますか」では、91.3%の児童が肯定的に答えており、全国や大阪市と比べても多い。引き続き、児童の良いところをほめて伸ばし、達成感や自己有用感を持つことができるような取り組みを継続していく。「読書は好きですか」では、65.2%の児童が肯定的に答えており、ボランティアによる図書館開放や委員会活動での読書推進の取り組みなど、低学年から本に親しむ児童を育ててきた成果といえる。

今後の取組(アクションプラン)

すべての学習の基盤となる言語能力の育成を継続して行う。自分の考えを発表する時間をしっかりと取り、友だちの考えと自分の考えを比べて共通点や異なる点を見つけていく活動や、様々な視点から自分の考えをより、まとめていく活動を取り入れるよう授業改善を行う。また、基礎的基本的な学習も積み重ねていき、自分に合った目標をもってICTを活用しデジタルドリルに取り組んだり、漢字検定にチャレンジしたりするなど意欲をもって学習できるような環境を整えていく。学習したことを日常生活と結び付けて考えたり、生活の中から疑問点や調べてみたいことを見つれたりするなど、知識・技能が生きた力となるように教科の指導を工夫する。また、自主学習ノートの使用や、夕方スペシャル教室の取り組みを通じて自ら学習する姿勢を身につける。読書についても図書の開館時間を増やしたり、読み聞かせをしたりして、読書への関心を高める取り組みを進める。